

節句

5月5日は端午の節句です。節句は日本の暦の一つであり、伝統的な年中行事を行う季節の節目となる日のことで、江戸時代にそのうちの5つが公的な行事・祝日として定められました。皆さんは5つともご存じでしょうか？

①1月7日…人日の節句

(七草の節句)

②3月3日…上巳の節句

(桃の節句)

③5月5日…端午の節句

(菖蒲の節句)

④7月7日…七夕の節句

⑤9月9日…重陽の節句

(菊の節句)

の五節句です。それぞれに七草粥、菱餅・甘酒、柏餅、素麺、菊酒といった節句料理があります。

5月の端午の節句は、現在では鎧兜や五月人形を飾ったり、こいのぼりを上げたりして男の子の厄よけと健康祈願のお祝いの行事として定着しています。古くは奈良時代から続く行事で、元々は男の子に限った行事ではなく、邪気を避け、魔物をはら

うとされていた菖蒲をヨモギとともに軒に差したり湯に入れたりする日とされてきました。また、ある地域では「生命を生みだす女性が神聖なる早苗を植える」ということで、この日は女性が威張ってもいい日として豊穰を願う女性の祭りとする地域もあります。

時代が武家社会に移るにつれ、菖蒲と尚武(武士を尊ぶ)をかけて「尚武の節句」へと移り変わります。江戸時代には男の子の誕生と成長を祝うお祭りとなり、第二次大戦後にはこどもの日として国民の祝日となりました。

最近では「男の子も強いだけではダメ。思いやりや優しさも必要」といった親の要望もあり、かわいらしい大将飾りや五月人形も多くなってきましたが、男女共同参画を進める上では「男らしさ」や「女らしさ」も必要であると考えます。それぞれの特性を生かしてお互いを思いやり、役割分担していける社会が、真の男女共同参画社会ではないでしょうか。

健康ほっとLine

—市立総合病院の医師が健康に関する情報をお届けします—

放射線科って何？

院長・放射線科部長
松原一仁医師

放射線科という科は、一般の方にはなじみが少ないかもしれませんが。

市立総合病院には、放射線科と中央放射線部があります。放射線科には放射線科診断専門医が常勤しており、院内および近隣の医療機関の医師から依頼された患者さんの身体各部のCTやMRIなどの画像の診断を行っています。また、中央放射線部では、各種検査に精通した診療放射線技師が患者さんへの負担を最小限に抑えてX線写真やCT、MRIなどの検査を行っています。

ここで少しCTとMRIについてご説明いたします。CTは体の断面上のX線の透過度(通りやすさ)の分布図を作って、病気を診断する方法です。X線の透過度は空気、肺、脂肪、水、肺以外の内臓、石灰化した結石、骨の順に低くなっていますので、その差を利用してします。脳出血、肺の病気、腹部内臓疾患をはじめ身体各部の病気の診断に優れています。ヨード化合物からなる造影剤という注射薬を静脈に注射して、診断の力を増す方法もよく利用されます。最近の機器の性能の進歩は著しく、

広範囲の検査を1分から数分で行うことができます。X線を使うため、少し放射線被ばくがあり、妊娠の可能性がある場合などは使用が制限されることがあります。

MRIは強力な磁場のトンネルの中に入っていたとき、体の各部の構造を知る検査です。CTで分かりにくい病変が分かる場合もあり、CTと使い分けたり併用したりします。特に脳梗塞、椎間板ヘルニア、子宮卵巣、筋肉などの病気の診断に優れています。検査時間は数分から数十分かります。強力な磁場を利用するため、心臓ペースメーカーをつけていらっしゃる方には危険があり、行うことができないなどの制約があります。

この記事をご覧の方で体調に不安がある方は、かかりつけ医に相談の上、必要な検査を受けられることをお勧めします。CT、MRIなどはかかりつけ医からの紹介により当院でも実施しています。その場合は、患者さんそれぞれの状態に合わせて最適な検査を選択して実施し、判読させていただきます。かかりつけ医にお返事を差し上げています。ぜひご利用ください。